婦人の手帖

『闇』新米白根相場（十月十五日調べ）

豊作と政府の低物価政策で相場は低迷先行きとも弱気。

◎一升価格単価円
農家庭先渡し
九五ヨリ一〇〇
農家持込渡し一〇〇ヨリ一〇五
カツギ屋
一〇五ヨリ一一五
商品交換売掛金代
九〇ヨリ一〇〇

なお

「**おいしい米の品種**」を順次に記載しますと、農林一号、二十一号、銀坊主、丹娯、などの順となり米の品種を指定したほうがじょうずな買いかた。

より美しく撮られるには

あなたが、もしも最も美しく写真に撮られたいとお考えになったら次のようにお心がけなさい

(イ)晴天の日没一時間前後が最良、正午前後厳禁。

(ロ)日常、スタイル誌などどみるとき、あなたに適した自然のポーズを二、三マスターしておき、当日の服装にマッチしたポーズをとる。

(ハ)最も美しい顔の角度をカメラに向け、脣を舐しぬらし

(ニ)わがかゞやく最良の表情。

——ハイ写しますよ——

とつぐ娘に持たせてやりたい参考書

ヴァンデ・ヴェルデ著
「完全なる結婚」

L・テイザート著
「満ちたり結婚」
中央公論社発行

「たんす」「鏡台」「ミシン」など、嫁入りには必要な消具がいくつもありましょうが〃〃より以上とでもいいたい〃〃結婚に対する性知識の本を持たせてとつがせたいもの。

記した二つの本はいずれも興味的なものではなく、権威ある著書であります。たゞ前者は各社版とも、やゝ内容、邦訳の程度がたかすぎるのが難点かもしれません。

ヘップバーン、ヤーは手入れ大切

美にあこがれ、美を求める若い女性の心理には、ニューヨークも白根町も変りなく、遅ればせながら街のメンストリート〃雁木通り〃を、ヘップバーン嬢がサッソウと歩く。だがよくみると、ヘップバーン進歩して浮浪児型ヘヤーになっているのが多い。不精な淑女は御遠慮なさるが賢明。

各地自炊温泉御案内

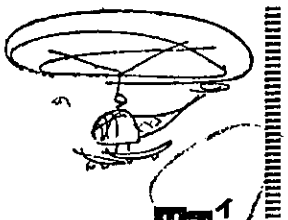
	適応症	一泊料金
栃尾又	婦人病	一三〇
月岡	ひふ病	一五〇
三川	胃腸	一〇〇
村杉	腰肩の痛み	一四〇
出湯	ひふ病	一三〇
高瀬	胃腸病	一〇〇
湯沢	リウマチス	一二〇
（米坂線）		
田上	万病によし	一四〇

掲載した料金は各温泉の中級宿泊料金で、最高はそれに三〇円増し、最低は各地とも百円均一。

町（イナカ）の歴史的大事件（ホームランニュース）

『ヘリコプター』着陸！

驚愕した白根の人々



突如〃来る

「突如」まさに突如としてである。〇〇耕耘機のスポンサー付ヘリコプターが、ひなびた白根町をたづねた。

台風十五号が一過した九月二十九日午後〇時三〇分頃、ヘリコプター飛来。白根町上空を超低空で旋回しはじめる。一回、二回……紺碧の秋空に巻雲が三すじ四すじ、あわく長い尾をひいている。

エンヂンの音は眠れるごとき町を騒然とさせた。大人、小人男、女、町に住むあらゆる人種がひしめきあって、学校へ、学校へと人の波がうねってゆく。表通りも、裏通りも、学校へ通ずるすべての道はざわめき、ごったがえしている。ただ、息せき切って「**ヘリコプター**」という会話の談片が、ときどき耳に入るだけ。ヘリコプター！なんとスマートな現代的な感覚を持った言葉だろう。ヘップバーンと同じぐらいにもてはやされてしかるべき余韻をもった二十世紀中期の流行語。そしてこの文明の巨鳥は、新時代の宣伝戦のトップ・モードとしてクローズ・アップされ、抜け目のない業者は、今後もます〳〵この巨鳥を利用するだろう。

カメラマン総出動

学校のグランドは台風名残の雨でぬれている。その上を下駄が走り、自転車が通る。炎天の下でローラを引いてセッカク整備したグランドが、凸凹のザイゴのグランドにかえった。グランドの入口に要注意の立札があったはずだが……。

ヘリコプターの着陸地点は、「××耕耘機」と染め抜いた赤、青、黄、色とりどりの、のぼりがはためき、四、五千の観衆がゾロリととり巻く。背伸びするものあり、自転車の上に仁王立ちするものあり、さながら町民運動会のごとき景観。

町のカメラマン氏は、この歴史的大事件をフイルムに収めんものと、ウの目タカの目。「おや、あの人もカメラを持っているんだな」と、新しい発見に感心し、ちかごろのカメラ熱のすさまじさに驚異の目をみはらされた。

呆然と見送る観衆

やがてヘリコプターの性能の説明がマイクからトウトウと流れてくる。爽かな秋の風に乗って……。しかし観衆には馬の耳に念仏。目前に降りた巨鳥に瞠目するばかりで、〃メンドウクサイ説明なんかどうでもいゝ〃心こゝにあらざれば……だ。

長い説明が終ると、エンジンがうなりだす。軽快なといいたいが、ハイカラな米国製ジェット機の爆音を聞き馴れた耳には前世紀的な鈍重な機械音としかひびかない。

エンヂンのピッチはあがり、轟音が耳をつんざく。「機体」ゆっくりと垂直に上昇し始める。五秒、六秒、高度三十、——ヘリコプターは北西の空をめざして飛んでいった。戦時中の赤とんぼをおもわせる爆音を残して呆然として見送る観衆を下に見ながら……。

みごとな野次馬の集り

あれだけの野次馬の集りようはみごとだった。物見高いは江戸の衆ばかりではない。まさるともおとらない白根モンの鮮かさだ。集会、会合もあのようにできたら、八時半に開会予定の町民運動会が、いつでも十時近くなってようやく入場式が始まるような醜態は、演じられなくてすむだろうに……。

げに恐ろしきは文明である。しかも、〃ヘリコプター来る〃のニュースは白根町はじまって以来のことであれば、またやむをえないのかもしれない。

短歌

○　辻　昭夫
終バスに土手通りつゝ我が町のネオン一つ見ゆ新映画館

○　石崎　涼水
里に帰りて初子産まむと云う妻の荷を自転車に駅へ運びぬ

○　野沢　久三
我が架くる稲架のかげのいやひこの山のみどりに秋の色深し

○　瑞　雲
夜業より帰りくる途中催周のクリーム飲むが我がおごりなり

方言のしおり

がえちま（がえち）

標準語「かえる」「かわず」語源「がえち」はその鳴声を人声音で表した声喩。「ま」は接尾語で意味はない。「あねま」「あんにゃま」の「ま」が尊敬の意味を失って、たゞ習慣的にそえられたものとおもう。

「かえる」の「かえ」をはじめ各地方言「がえる」の「がえ」「ぎゃろ」の「ぎゃ」「げろ」の「げ」がすべて声喩であり、「る」「ろ」は意味のない添言であるということからも容易に察しられる。

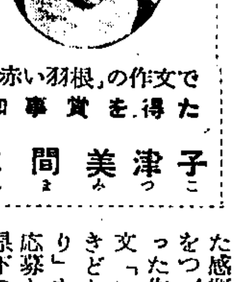
人

理想が実現へ、ナイチンゲールの活躍は目ざましく、ナイチンゲールの夢見る日も目の前に、看護婦として一命をつくした人こそ、あの心の気高い人、これからも手本になろう。私達もすなおな人間として世の中の為に協力したいものである。世界で指折の偉人であるナイチンゲール私は考えさせられる問題がある」夏休みの読書感想に「ナイチンゲール伝」に深く感動してその作文をこう結んだ。学校では無口、目立つ存在ではないが、困っている友達のめんどうをよくみてやり、めぐまれぬ子によく気づき、世話をしてやる等同情心と博愛的性格の持主。

つね日ごろの、このような性格がしぜんに、赤い羽根募金に対する誠意となって、にじみでて、今年度「赤い羽根に寄せて」の作文募集に、街頭募金に立った感慨をつづった作文「いきどおり」を応募し県下の最優秀知事賞作品に選ばれ、みごと、知事賞を獲得した。

自分にあたえられた仕事は真面目に、几帳面にはたし、あまり笑わないが、とき〴〵女らしくニッコリ好感のもてる笑いかたをする。

中学三年、三組　（桜町）



「赤い羽根」の作文で知事賞を得た
本間美津子（ほんまみつこ）

日の丸（暗）

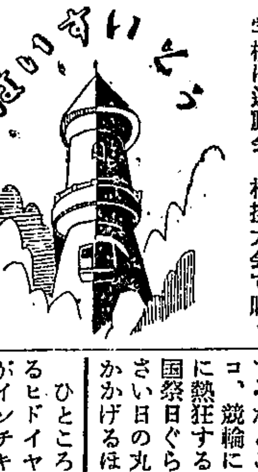
戦後、雲上の世界にかすんでいた天皇も人間の座に下り、デモクラシー国家として再出発。

祝祭日も従来のヤツは封建的、国家主義的で時代にふさわしくない。そこで、ガクのある人たちが〃文殊のチエをしぼって昭和二十三年九月新しい国祭日を制定した。元日、成人の日、春分の日、天皇誕生の日、憲法記念日、こどもの日、秋分の日、文化の日、勤労感謝の日。この九日を新しい国祭日とし、呼びかたも親しみやすく大衆的にした。

占領中はマック氏から国祭日とはいえ、国旗掲揚まかりナランというキツイお達し。それが講和条約の締結とともに一応独立国らしく、国旗掲揚もOK。国祭日には軒先に日の丸をかかげて祝う風習をとりもどした。

学校は運動会。相撲大会で賑っていた快晴の秋分の日、町を歩いてみると、国旗の姿はサッパリ。町中かぞえてみたらわずかに四十八本の日の丸しか見つからぬ。町役場、警察署、郵便局等公共的官庁、事業所の玄関にも、役場の屋上にも日の丸はひるがえってはいなかった。いささか心さびしい次第。国旗をかかげるのは国家主義だ、逆コースだとイキリ立ってみたところではじまらぬ。パチンコ、競輪にウツゝをぬかし、ジャズに熱狂する植民地的亡国的風潮より国祭日ぐらいタンスの底から樟脳くさい日の丸の旗をとりだしすなおにかかげるほうが独立国民族らしい。

赤い羽根（明）



そのむかし、スイスの山林に住む牧師が、道ゆく金持をみて「なぜ多く持っているものは持たざるものを助けないのだろうか」とおもった。かれは考えた「どうやって持たざるものを助けようか」と。そこで路傍に木の箱をとりつけ「あたえよ、とれよ」と書き込んで旅人に訴えた。心あるものは、いくらかの金をその箱に入れ持たざるものは引き出した。この慈善箱が共同募金の元祖。現在の共同募金は端をアメリカに発し、一九一三年オハイオ州クリーブランド市で街頭にコンミュニティ・チェスト（公衆の箱の意の訳語）をおき、その集った浄財で慈善事業を開いた。この美挙が普及して募金運動が世界にひろがった。

日本の赤い羽根は昭和二二年十一月が第一回、以後毎年十月を共同募金の月として、橋のたもとに町角に「おねがいします」的風景を風の日も、雨の日も描きだす。

ひところ赤い羽根の募金を横領するヒドイヤツが現出したり、某教祖がインチキしたりで、下火となったが最近なか〳〵積極的に協力する傾向とみにさかん。そこでどうだろう町にも四・五ケ所無人募金箱をおいてみたら……。

今年の募金目標は県下で三千五百万円、白根では一一万九千円、一割は街頭募金、二割は興行による収入、七割を戸別に割当て目標を達成する予定。この募金は貧しい人々の援助や季節保育所、児童遊園地の施設費等にあてられる。

声

無責任な駅員と
親切なトラックの運転手

先日、私達夫婦が小千谷からの帰り、三条市に着いた時は夜の八時半頃で、もうツバメ行きの汽車はなくなっていた。

だが然し、今夜中にどうしても白根へ帰らなくてはならない弱りぬいていた時、中越バスのツバメへ行くことに気がついたが、はたしてツバメから白根行きの電車があるかわからない、そこで東三条駅に電話で問い合せたところ、これからのバスに乗っても充分間に合うとのこと念をおして再度確めた処、はきだす口調で絶対白根へ行くことに間違いないとの返答だったので間もなく来たツバメ行きのバスに乗った。

驚いた、もう、白根行きの最終はなく、新飯田行止りがあるだけ。「こんなことになるかも知れないと思ったから東三条駅にあんなにも、よく確めたのに」と今更口惜しがっても後の祭り。止むなく新飯田まで行ってあとは歩くことにした。

夜はもうトップリ更け、星空は美しいが、遠く近くに犬がやたらにほえる、腹がへる。

六分の橋近く来た時、はるか下からヘッドライトの光がみえた。私達は走って橋を渡り国道のまん中に立った。

トラックに向っている私達をヘッドライトは明るく照らす。急停車して事情をきいた新潟運輸の運轉手は快よく乗せてくれた。

そして白根の町に着きトラックからおりる時、せめてもの私達の感謝を表す二枚の百円札をどうしても受取らない。

「交通違反をした上、会社の正規料金以外は貰われません」と、受取ってくれと哀願する私達夫婦に、運転手達は笑顔でそう答えながら、アクセルをふんだ。

私達はいつまでもトラックの響きが闇の夜に消え失せるまで、じっときいていた。

（B　生）

編集後記

▽おもえば、じつに長い編集期間だった。月余にわたり企画し取材し整理した労苦の結晶▽血のにじむような努力の去る夜、来る日。という表現が誇張でないくらい東奔西走▽今号はピントを町史以来の大問題「統合」に合わせた▽県広報課の指導、朝日新聞社の好意、町当局の協力によって今号はようやくにしてまとまった▽カットは県画界の新鋭新田氏に依頼、その百数十枚の力作中より厳選▽冷い秋の夜はしづかに更けてゆく、いよいよ明後日発行、いつものことだが活字になった紙面を見てがっかりする、編集子のウデの未熟さと浅学のゆえだ。なにぶんおゆるしねがいたい。（和郎）